

第28号

令和4年3月発行
関市子ども会育成協議会
【事務局】
関市若草通2丁目1番地
関市生涯学習課内
TEL0575-23-7777

わかさ

題字：上田 清四

10/16(土)
12/11(土)

縄文土器づくり体験

塚原遺跡公園



すぐに出来る子もいれば、時間いっぱい考えながら作る子も。形も大きさも様々で見ているだけで面白かったです。



焼きは、焚火の周りに土器を置いてじっくり焼き上げる。縄文時代の方法で行いました。



感染対策で人数を制限する中、多くの申込みをいただきました。わかさ・プラザでの展示の様子。

11/7(日)

関ジュニアリーダーズクラブ 秋の研修会

旭ヶ丘小学校体育館



JLCのメンバーが主体となって、イベントの構成やレクリエーションの内容を考え、実施しています。



1枚の新聞紙を細く切って、つなげた長さを競うレク。グループ、個人で切り方に個性を感じました。



水の入ったペットボトルの重さを当てるレク。じゃんけんて負けたらチームみんなで走るレク。

令和3年度 関市子ども会に寄せて

関市子ども会育成協議会
会長 足立 雅彦

関市の子どもの会育成者役員の皆さま、今年度も昨年度に引き続き「コロナ禍のもとでの事業の計画・実施を進めていただき誠にありがとうございました。また、ジュニアリーダー・シニアリーダーの皆さまも例年になくやり方で子ども会活動に参加協力して頂きありがとうございました。

単位子ども会の役員育成者の皆さまには、例年になく状況下で感染予防に努めて頂きながら活動を進めていただいておりますが、市内の子ども会活動の中で、感染事例は発生しておりません。これも皆さまのご尽力の賜物であると存じます。引き続き感染予防にお気遣いをお願い申し上げます。

関市子ども会育成協議会の行事も「コロナ」により軒並み中止となりましたが、昨年10・12月に塚原遺跡公園にて「縄文土器づくり体験」を開催することができました。また、本来なら5・6月に中池自然の家にて宿泊研修として開催する予定だった「関ジュニアリーダーズクラブ春の研修会」「関市インリーダー研修会」の代替として、昨年11月に旭ヶ丘小学校体育館にて市内の小中学生を交えて「関ジュニアリーダーズクラブ・秋の研修会」を実施いたしました。

また、昨年8月には乗鞍青少年交流の家(高山市)で行われた「東海北陸地区ジュニアリーダー研修大会」に役員ジュニアリーダーが参加しました。野外での炊飯体験では、高地で沸点が低いために半煮えのカレーライスが出来上がるという貴重な体験をいたしました。今後の関市での活動に生かしたいと思っております。

今年度、関市子ども会育成協議会の堀敦夫・永田博之の両副会長が(公社)全国子ども会連合会から表彰を受けました。これはお二人の貢献が評価された証だと思っております。今後とも、皆さまの育成協議会へのご支援ご協力を、よろしくお願い申し上げます。

地域とのつながり

倉知地区

今年度も昨年度に引き続きコロナウイルスの影響により、子ども会の行事や運動会など学校行事の多くが延期・中止となりました。

それに伴い、子どもたちと地域の人との交流の機会が減り、地域の一人として寂しく感じました。しかし、今の私にできることとして、毎朝子どもたちの登校時にあいさつをすることで、少しでもコミュニケーションを図り、地域とのつながりが持てればと思い、活動をしてまいりました。

コロナ禍であっても、人と人とのつながりを忘れずに大切にしていきたいと思っております。マスクを外して笑顔であいさつを交わせる日が、一日も早く戻ることを願っています。 【原 可菜】

コロナ禍でのあいさつ

田原地区

田原小学校では、密を避けながらあいさつ運動を行いました。毎年「はもみん」などが訪れていましたが、今年は密を避けるために「はもみん」たちの訪問は中止となりました。

子どもたちは、元気にあいさつしてくれる子や、恥ずかしそうにあいさつする子の姿が見られましたが、それでもたくさんの子が目を見てあいさつを返してくれました。これからもあいさつを大切に、みんなにあいさつができると良いと思います。

今年度こそは日常を取り戻し、たくさんの方の行事などが再開できることを願っていましたが、残念ながら今年度もさまざまな行事が中止となってしまいました。子どもたちの学校生活の中では常にマスクをし、楽しいはずの休み時間や給食の時間なども常に人との距離を気にしながら過ごす日々の中でも、元気に登校する姿には敬意を払います。一日でも早くこの事態が終息することを願っています。 【上村 みか】

本部役員から

全国子ども会連合会表彰受賞に際して

浅学非才な私が、全国子ども会連合会表彰を受賞できましたのは、関市子ども会育成協議会に関わられた多くの役員の方々の皆さまのご指導の賜物であることを深く感謝申し上げます。

私が、関市子ども会育成協議会の本部役員とならせていただいたのは、平成14年度の関市PTA連合会役員就任時に、副会長として出向させていただいたのが始まりです。

副会長に就任した際、関市子ども会育成協議会の事業に関して、参加した関市内の単位子ども会の子供たちに、ジュニアリーダーズクラブが中心となり「インリーダー研修会」「縄文土器づくり体験」などを実施し、役員や指導者は、安全に事業が遂行できるかを陰で見守り、子どもたちの自主性を重んじる姿勢が新鮮に映った記憶があります。

現在、コロナ禍において子ども会の事業も十分に実施出来ない状況ではありますが、皆さま方と知恵を出し合い、より良い事業展開ができる事を切望しております。

最後になりましたが、子ども会が益々発展し、子どもたちが健やかに成長することを祈念いたします。 【副会長 堀 敦夫】

人とかがわると言う事

あれは私が参加した3回目くらいのインリーダー研修会での出来事。

2日目の朝に階段でジュニアリーダーの子が挨拶してくれました。私はその子のことを知らないし、たまたま「お手伝い」として参加しただけ、そして挨拶に続いて2~3の言葉を交わしました。

でもその時のその子との会話が今でも思い出されます。確かにその会話は私の心に何かを与えました。私自身が人との出会いがかわりを楽しみにしている面を持っている中で、子どもたちに教わる事が多いと知らされた出来事でした。

昨今の新型コロナウイルスで人との接触を減らしています。役員会も減り、子ども会活動も少人数化されて、多くの人が人とのかわりを減らしています。その様な環境下でも、お互いに深くかわり合える活動を模索していきたいと思っております。 【副会長 永田 博之】

関市子ども会活動に参加して

令和3年度の子ども会育成協議会の行事は、昨年に引き続き新型コロナウイルス感染拡大防止に配慮しながらの実施となりました。

私は、活動が実施できた10・12月の「縄文土器づくり体験」や11月の「関ジュニアリーダーズクラブ秋の研修会」に参加し、子どもたちがいきいきとした表情で、有意義な体験を楽しんでいる姿を見ることができました。

同じ学年の友だちと学校生活を共にする教室の場とは異なり、子ども会は異なる学年の子を相手に様々な社会経験ができる貴重なコミュニケーションの機会だと思います。子ども会育成協議会の各活動は、学校以外でそのような場を提供できるとも大切な時間であることを改めて実感しました。

今後も、以前から行っていた行事が中止や縮小となってしまう状況が見込まれますが、子どもたちに貴重な体験の機会を少しでも多く提供し、変化に対応しながら、子ども会育成協議会全体が活発化するように協力し合いたいと思っております。 【副会長 永田 陽一】



全国子ども会連合会 表彰報告

今年度、堀敦夫、永田博之の両副会長が(公社)全国子ども会連合会から表彰されました。おめでとうございます。



堀副会長 永田副会長

未来の子どもたちへ 思いを繋ぐ活動を

安桜地区

今年度もコロナの感染者数に行事の開催を左右され、中止になった各子ども会の行事も多かったと思います。ここ数年にわたり中止になってしまうと、今後はコロナの影響がなくても「開催しないでもいいのでは?」という意見も出てくるかと思えます。しかし子どもたちのためという点で子ども会活動を継続して頂けたらと思います。

コロナの特効薬が開発されれば、以前の様に活動をできる日が必ず来ます。感染対策をしっかりすれば、現状でもできる子ども会活動はあるはず。誰のための子ども会なのかを今一度考えて頂き、皆さんで話し合ってくださいと思います。

子どもたちの笑顔は嘘をつきません。将来子どもたちが親になって、子どもの頃を振り返った時、何も思い出がない親にしてしまうことは、その次の世代へも影響が出てしまうのではと心配になります。

皆さんの意識や行動で未来が変えられるということを念頭において活動をお願いいたします。【川嶋 健】

チャレンジする子

旭ヶ丘地区

旭ヶ丘地区では昨年度に続き、新型コロナウイルス感染拡大防止により各子ども会活動を中止にするところも多い中、新たな行事に変えて行う子ども会もありました。

私は役員で関市子ども会育成協議会主催の縄文土器づくり体験にサポートスタッフとして参加させて頂きました。

参加者は低学年が多く、親子で工夫を凝らした作品を作っていました。

その中で活躍していた『関ジュニアリーダーズクラブ』は、受付、準備、待ち時間のレクリエーション、片付けなど何事にも率先して行い、仲間との連携、明るいあいさつ、礼儀、そして何よりも一生懸命に参加者を楽しませようとする心が素晴らしいです。

旭ヶ丘地区の子たちにも関ジュニアリーダーズクラブの子のように、コロナ禍でも、興味があることや得意でないことにもチャレンジ(参加・挑戦)していてもらいたい、そしてそんな子たちをこれからもサポートしていけたらと思います。【山田 喜一】

向山子ども会

南ヶ丘地区

昨年度と同様、コロナ禍の中で、今年度も子どもたちが楽しみにしていた春のお祭りや夏の盆踊り大会が中止になりました。

今年度も長寿会や自治会、婦人会の皆さんのおかげで、夏休みにはラジオ体操ができました。朝には、子どもたちの元気な姿を見ることができてホッとしました。

また、今年度も長寿会の皆さんによって、子どもたちのためにおもちを作って頂きました。子どもたちには持ち帰って食べてもらいました。

ボーリング大会は、会場のご協力のもと感染対策をしながら、高学年の子が低学年の子をやさしくアシストしながら楽しいボーリング大会ができました。

来年度はたくさん行事ができるといいですね。また、地域の方にも協力をしてもらいながら子どもたちを守っていきたく思います。【兼富 季香】

池尻子ども会

瀬尻地区

池尻子ども会は、4月は神輿つり、7月は公民館でのお泊り会、12月はクリーン活動とクリスマス会、2月はボーリング会兼お別れ会を行います。しかし、今年度も昨年度に引き続き、コロナ禍によりすべての活動が中止となってしまいました。

そんな中、10月に関市子ども会育成協議会の活動で縄文土器づくり体験のお手伝いをさせて頂き、そこで子どもたちの楽しそうな姿をたくさん見ることができました。子どもたちにとって、こうした体験が楽しかった思い出として記憶に残っていくものだと感じることができました。

今後の状況がどうなっていくのかわかりませんが、少しずつ活動が戻り、子どもたちの楽しめる場が増えていくことを願っています。また、子どもたち自身が、今後どういったことがしてみたいのか、やれるのかを考え、一緒に作り上げていける場になるとよいのではないかなと思います。【河村 大作】

桶森子ども会

武芸川地区

昨年度に引き続き、今年度もコロナのために4月の子ども神輿を中止することになってしまいました。しかし、何か少しでも子どもたちに楽しさを、笑顔になれる時間を、と考え役員で話し合い、神輿以外は例年通り活動できるようにしました。

感染対策の徹底と短時間での活動ということで、何とか8月の夏の交流会、12月のクリスマス会を開催することができました。そして2月には歓送迎会も予定しています。

年々子どもの人数も減っていき、現在は13名で活動しています。人数も少ないため学年の壁はまったくなく、みんながとても仲良しなのが嬉しいところだと思います。ビンゴなどをやると、自然と高学年の子が低学年の子の手助けをしている姿が見られます。そんな姿を見ていると、悩みながらも開催してよかったと役員みんなで安心しました。この先もそんな姿がみられることを願っています。【澤井 正子】



各地区子ども会役員より

金竜地区

今、思うこと

今年度の子ども会活動も、昨年に引き続き新型コロナウイルス感染拡大防止のため、多くの行事を中止せざるを得ないこととなりました。映画鑑賞、ボーリング大会はもとより、地区老人会や婦人会に協力して行っていたグラウンドゴルフ大会やカレー作りなど、地域の方々とうれあう貴重な機会も中止となったことは、子どもたちの感性の成長や地域とのつながりを考えると非常に残念です。子どもたちと道端ですれ違うと元気に挨拶してくれる、笑顔で話してくれる姿は、これまでの活動で培われてきたものだと思うからです。

現状もコロナ禍の収束が見通せない状況にありますが、子どもたちの健康と安全を第一義としながらも、この2年間の経験を踏まえ、活かして、こんな状況だからこそ子どもたちの成長を通して地域の皆さまが明るく豊かな気持ちになれる。理想かもしれませんが、そんな活動ができるように頑張りたいと思います。【山田 博】



上之保での子育て

上之保地区

今年度の子ども会も昨年に引き続きコロナの影響で活動ができず、子どもたちには寂しい思いをさせてしまいました。私はもともと上之保の出身ではなく、13年ほど前に仕事の関係で名古屋からこちらに夫婦と子ども2人で引っ越してきました。

初めて来たときには、周りに猿や鹿など野生動物がいて、知り合いも全くない、非常に心細かった思い出があります。しかし、周りの人がいろいろな気にかけてくれ、すぐにこちらの生活にも慣れ、子どもたちや妻にも友だちができ、家族全員充実した日々を過ごすうち、当初数年で名古屋に戻る予定でしたが、上之保で子育てがしたいと思い、1歳でこちらに来た下の子どもも来年は中学校を卒業することになります。

上之保は豊かな自然の中、子どもからお年寄りまで元気な人たちがたくさんいますが、過疎化が進み、子どもの数も年々減少していることは非常に心配ですが、今後も元気のある上之保の子どもたちの笑顔がずっと続くように願っています。【兼岩 博司】



振り返り

下有知地区

2021年も昨年と同様に新型コロナウイルス感染拡大のため、子どもたちが楽しみにしていた行事が中止になりました。マスクをしての生活が当たり前となり、子どもたちもいろいろな面で生活での生きづらさを感じる中で、下有知小学校では「ぎんちゃんを救え!コロナに負けない夢パワー!!」というテーマで少しでも子どもたちに楽しんでもらおうと企画された行事がありました。

コロナウイルス感染対策を考慮しつつ、タブレットを使い一人一人が夢を書いた「いちょうの葉」を全校分貼り集め、「大銀杏」の壁画を制作しました。まだ完成はしていませんが、どんどん「いちょうの葉」が増えていく様子を動画に撮ったりと子どもたちも完成を楽しみにしています。

子ども会としては大きな行事はできませんでしたが、今のこの社会状況が一日も早く落ち着き、安心して子ども会活動ができることを願っています。【本田 祐也】



ジュニアリーダーズクラブ研修に参加して

富岡地区

11月に「関ジュニアリーダーズクラブ秋の研修会」が行われました。ジュニアリーダーは、中学生と高校生で構成されていて、研修会ではリーダーを中心に小学生児童とのレクリエーションが行われました。私は、リーダーたちが大人の手助けなく率先して自分の役割を考え、行動する姿に感銘を受けました。中でも新聞紙を使ったチーム対抗戦では、素晴らしいチームワークを発揮しておりましたのでご紹介致します。

児童たちはチームに分かれ、各チーム一枚ずつ配られた新聞紙をちぎり、一番長く並べ繋いだチームが勝利という競技で「できるだけ細くちぎった方が長さを稼げて有利だよ」「でも細すぎると端が丸まってしまうね」「じゃあ私は端の丸みを伸ばすからどんどん並べいってね」と、楽しそうに作戦を立てながら互いに協力しあって挑戦する姿は、将来のリーダーたちの姿にも見えました。私は、互いに協力しあう経験の大切さと素晴らしい姿垣間見る事ができ、嬉しく思いました。【渡邊 智子】

